

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0873400352
法人名	社会福祉法人 保内園
事業所名	グループホーム のどか
所在地 (電話番号)	茨城県久慈郡大子町矢田1247-2 (電話) 0295-72-6051

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月29日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.6人	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 78 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	久保田病院 ・ 齋藤歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅と山と川に囲まれた自然豊かな場所に位置している。利用者は個々のペースやリズムを大切にしながら生活している。穏やかで明るい表情の利用者と、優しさや親しみがこもった言葉使いの職員が印象的なホームである。今後も、利用者を中心に置き家族や地域との連携を図りながら、更なる向上を目指す事が期待できるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け、金銭管理や買い物の支援など、利用者の状況に合わせて行なえるよう改善している。また、研修参加の充実や、利用者に「様」をつけて名前を呼ぶことに関して、改めて考える機会作りの場となった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に項目ごとに確認しながら管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の活動状況や、ホームの取り組みなどを中心に報告しており、前回の外部評価についての報告も行なわれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「ふれあいデー」として昼食会を開催し、家族の意見や要望を聞けるような環境設定をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のイベントへの参加や、ホームのイベントの地域住民の参加、ボランティアの買い物支援などが行なわれている。また、散歩や外出時の挨拶など日常的な関わりを持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として地域活動に貢献していくことを中心に置いた理念が掲げられ、ホームとしては「地域の中の家」の一つとして位置づける事を理念に盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、人生の先輩である事を念頭に置きながら、利用者を共同生活していく仲間とし、個々のペースに合わせた生活の支援を心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣での困りごとの支援や、幼稚園の運動会への参加など積極的に地域との交流を図っている。		自治会への入会などを通して、更に地域に溶け込んだ付き合いが行なえるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行なう事はホームにとって現在のケアを見直す良い機会になると考えている。前回の評価を受け積極的に改善に取り組んでいる。		今回の自己評価を再度ホームの全職員で見直しをし、現在のケアの確認や今後の課題の確認をしていく事に期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域、家族も参加した会議が開催されホーム内で昼食を摂取してもらい、ホームの様子を見てもらえるよう取り組んでいる。次回からは地域との関わりについての話し合いも積極的に行ないたいと考えている。		

茨城県 グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者、町担当がお互いに情報交換に努め、ホームから積極的に働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態について、ホーム便りや電話などで報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族ふれあいデー」を通し、意見交換や要望を聞く機会作りを積極的に行なっている。特に苦情として挙げられた事例はない。		意見箱を家族にとって記入し易い場所に設けるなど、意見や要望が更にホームに届きやすくなるような工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者と新職員が半月間一緒に勤務する事で、利用者の混乱を避けると共に、新職員への引継ぎが充分出来るように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や、ホーム内の勉強会、外部研修への参加など積極的に取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内にグループホームは一ヶ所のため、同業者との交流には取り組めていないが、今後他のホームへの見学などを職員と共に行なっていく予定である。	○	グループホーム協議会や研修会などへの参加から、同業者との交流や情報交換を行なっていく事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学会を実施している。また、居室の空きがある場合は体験入居の受け入れも準備している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの慣わしや習慣を教えてもらい、現在の方法をこちらから伝えるなど、支え合いながらの生活支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望や意向を日々の様子や言動から捉えられるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に家族や本人から得た情報や入居してから一ヶ月程度情報を取り、それを基に介護計画を作成している。話し合いや意見の反映の点では充分でないと感じている。	○	今後は、介護計画を職員と共有しながら作成すると共に、家族への報告の書式を整備する事で、更に利用者本位の計画作成になることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月を目安にアセスメントの見直し、介護計画の評価を行い計画の見直しを行なっているが、評価の指標となる経過記録などの整備がされていない。	○	見直し時期は利用者の年齢なども考慮した設定が望まれる。また、介護計画に側した経過記録やモニタリング用紙の整備をしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民からの相談事に対し次のサービスに繋げたり、現在のホームで出来る限りの柔軟な対応を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時24時間対応可能な医療機関との連携が図れており、週に1度の往診も受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、看取りの事例はない。今後は終末期に向けた取り組みを行なって行きたいと考えているが、方針などは明確になっていない段階である。	○	ホームとして終末期の利用者のケアをどの様に考えていくかを明確にし、本人・家族・職員全体で具体的な方針を検討していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活のあらゆる点での配慮が見られるが、個人情報についての書式の整備がやや不足しているように感じる。	○	個人情報についての書式の整備に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムを乱さないように配慮し、生活歴を大切にケアの提供が行なわれている。		

茨城県 グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成、買い物、調理、片付けと利用者と職員と一緒にいき楽しみながら食事が出来るように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望を聞きながら入浴の支援を行なっている。また、季節のお風呂も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味や経験を活かしながら、それぞれの役割を支援し、楽しみごとの提供を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聴きながらドライブや外食などを取り入れ、日常的に外出する機会を多く持っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は施錠することなく、職員の見守りの中、利用者は自由に外との行き来が行なえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練はもちろん、毎朝のミーティング時に火災想定の上昇シミュレーションを行い、日頃から防災についての意識が高い。非常食などの備蓄も行なっている。		今後は、地域との連携を図りながらの訓練や、災害時に地域住民を受け入れられるような体制づくりにも期待したい。

茨城県 グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューを心がけ、水分摂取もこまめに行なっている。		おおよそのエネルギー量の把握のため、栄養士会などに相談し今後の参考にする事や、水分チェック表を用いる事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングの窓際に畳のスペースがあり、利用者にとって居心地の良い空間となっている。光彩の取り入れ方にも簾を置くなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体状況や好みに合わせて、畳とフローリングを使い分けている。また、使い慣れ、大切にしてきたものが置かれている。		